

教科に関する調査の設問別の分析結果「書くこと」
「基礎・基本」定着状況調査 中学校国語 五 記述2

問題

【出題の趣旨】
自分の考えを効果的に伝えるために、適切な理由を明確にして書くことができる。

【学習指導要領の内容・領域】

B 書くこと（第一学年）

ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。《記述に関する指導事項》

オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりにすること。《交流に関する指導事項》

五 田中さんのクラスでは、敬語の使い方について話し合いました。「敬語は改まった場面だけで使えばよい」という二つの意見がありました。そこで、どちらがよいかについて意見文を書くことにしました。

次のアとイの二つの文章は、どちらも「敬語は日ごろから使うべきだ」という主張をしている意見文ですが、どちらの文章が意見文として適切でしょうか。アとイを読み比べて、【注意】にしたがって書きなさい。

意見文ア・イ省略

【注意】

アとイのどちらがよいかを書いた後に、理由を書くこと。
理由はアとイを比べた内容にすること。

正答の条件： 適切な理由として、「意見を明確にしているかどうか」「意見を支える適切な理由を述べているかどうか」を含む適切な理由を書き、アとイを比較して書いている（類型1）。適切な理由として類型1以外について二つ以上挙げて書き、アとイを比較して書いている。（類型2）

準正答： アとイを比較して理由を二つ以上書いているが、一つしか合っていない。

	正答率
広島県	56.9
町全体	72.5

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	9	0
	類型1	類型2	準正答	比較して書いている	理由を一つだけ	引用しているだけ	問題文読み間違い	上記以外の回答	無解答
町全体の割合(%)	36.3	0.0	36.3	5.0	2.5	0.0	8.8	6.3	5.0

この問題を解くために必要な力

意見文を書く際に必要な条件を理解して、文章の内容及び表現の仕方を評価・批評する力
視点の異なる複数の理由を挙げて自分の考えを述べる力
問題文を正しく読んで問いを理解する力

誤答分析

解答類型4...アとイを比較するという問題文の意図を適切に読み取らず、一方のみを論じている。

解答類型5...理由を一つしか書くことができていない。

解答類型7...「どちらの文章が意見文として適切か」という問題文の主旨を読み取っていない。

解答類型9...ア・イに対する自分の意見を述べているだけ。

無解答...何をどのように書けばよいのかを考えつかず、書き始めることができていない。

以上のことから、生徒のつまずきの原因として、

意見文を書く際に必要な条件を理解して評価・批評することができていない。

読み手を納得させるために、意見を支える妥当性のある根拠を挙げることができていない。

何を問われているのかという問題文の主旨を正しく読み取って答えることができない。

ということが考えられる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

「基礎・基本」定着状況調査 中学校国語 五 記述2

【単元名】 伝記を読んで未来を語ろう「僕は のように したい」

調査結果からみる課題

- **【課題となる力】**(生徒の課題)
 - 意見文を書く際に必要な条件を理解して評価・批評する力。
 - 意見を支える適切な理由付けをする力。
 - 問題文の主旨を正しく読み取って答える力。
- **【指導上の課題】**(教師の課題)
 - 複数の文章を比較させる時に比較すべき視点を理解させきれていない。
 - 読み手を説得する効果的な根拠・具体例の述べ方の指導が不十分。
 - 正しく読み取るために線を引きながら問題文を読ませるなどの指導が不十分。

指導改善のポイント

● **自分の意見を支える妥当性のある根拠を挙げる力を付ける。**

【指導の工夫】

- 既習事項(意見文ガイド)を活用させる。
- 完成前と完成後に相互評価を取り入れて、読み手を説得する適切な理由付けを理解させる。
- 読むことと関連付けて書かせる。

調査結果の分析をふまえ、各校で行う共通実践

既習事項(意見文ガイド)を活用させる。

- ・ 意見, 根拠, 構成に関する説得力のある意見文の書き方を確認させる。
- ・ 書きたい内容を項目ごとに並び替えて, 構成を考えさせる。

完成前と完成後に相互評価を取り入れて, 読み手を説得する適切な理由付けを理解させる。

- ・ 意見と理由の結びつきの妥当性を評価させる。
- ・ 評価者からのコメントに対して質問をするなどして, 読み手を意識した述べ方にさせる。

読むことと関連付けて書かせる。

- ・ 読む学習から, 書きたい内容を決定させる。
- ・ 「 のように したい」という枠を決めて題を考えさせ, その後に意見を支える理由付けを書かせる。

中学校第2学年 国語科学習指導案

単元名：【単元名】 伝記を読んで未来を語ろう「僕は のように したい」

単元について

本単元は、新学習指導要領の「B書くこと」（第1学年）の「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」「記述に関する指導事項」「書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」「交流に関する指導事項」を受け設定した。

本単元では、1学期に学習した説得力のある意見文を書く際に必要な条件を理解させる学習を土台に、自分の意見や考えを支える根拠の述べ方を指導する。

教材文としては生徒が読みやすい伝記から「私は のように したい」という題の枠組みを与え、どんな未来の社会を作りたいのかという自分の考えを述べる作文を書かせる。未来を考えると学習は自分の夢を語ることも重なり、抽象的なことについては考えられない生徒も自分の考えを明確にして述べるができるようになる。また、1学期に作成した意見文ガイドを基に生徒による相互評価を完成前と完成後に取り入れ、読み手を意識した述べ方を指導する。

以上のことから、本単元は自分の意見を支える妥当性のある根拠を挙げる力を付ける効果的な学習になると考える。

調査結果からみる課題

誤答分析から

『基礎・基本』定着状況調査」五の記述2

(1) 問題の概要

- ・ 二つの意見文を比べて読み、適切な方を選びその理由を書く。

(2) 出題の趣旨

- ・ 自分の考えを効果的に伝えるために、適切な理由を明確にして書くことができる。

(3) 誤答分析

意見文を書く際に必要な条件を理解して評価・批評することができていない。
読み手を納得させるために、意見を支える妥当性のある根拠を挙げることができていない。
何を問われているのかという問題文の主旨を正しく読み取って答えることができない。

指導上の課題

複数の文章を比較させる時に比較すべき視点を理解させきれていない。

読み手を説得する効果的な根拠・具体例の述べ方の指導が不十分。

正しく読み取らせるために線を引きながら問題文を読ませるなどの指導が不十分。

指導改善のポイント

指導内容・指導方法について

自分の意見を支える妥当性のある根拠を挙げる力を付けるために、次の1～7のステップを踏むようにする。

		指導内容・指導方法
1	題の決定	「僕は のように したい」という枠組みを与えて題(仮題)を考えさせる。
2	意見とそれを支える根拠を考える	現代の問題点とつくりたい未来の世界はどんなものなのかを詳しく説明させる。
3	文章の構成を考える	書きたい内容のカードを作って並べ替えさせる。

4	下書き	カードを基に下書きを書かせる。
5	相互評価	班ごとに下書きの相互評価をさせる。
6	推敲・完成	相互評価を基に推敲し清書させる。
7	相互評価（本時）	完成した作品の工夫点などを評価し合わせ、お互いの作品の良さを考えさせる。

「ことばの教育」との関連

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒に付けたい力は次の通りである。

意見の根拠となる事実を考える場面

..... 事実と意見を区別して書く力

構成を工夫し、説得力のある文章を書く場面

..... 構成を考えて書く力

立場を明確にし、根拠の取り上げ方や述べ方を工夫して書く場面

..... 具体的な理由・根拠を明らかにして意見を書く力

お互いの作品のよさを見つけて評価する場面

..... 結論先行で根拠を明らかにして話す力

単元の目標

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を積極的に振り返り、活用しようとする。 自分の意見文を説得力のある内容にし、表現の仕方を工夫しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を明確にして、説得力のある理由付けをすることができる。 文章を読み、論理の展開の仕方や根拠の妥当性などを評価・批評することができる。 書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を互いに読み合い、主語と述語の照応などに注目して評価することができる。

指導と評価の計画

（全6時間）

次	学習内容（時数）	評 価			評価方法
		関	書	言	
一	<ul style="list-style-type: none"> 主題の決定 意見とそれを支える根拠を考える 				<ul style="list-style-type: none"> 意見を明確にして、説得力の理由付けをしている。 ワークシート
二	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を考える 				<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を積極的に振り返り、活用しながら文章構成を考えている。 構成カード
三	<ul style="list-style-type: none"> 下書き 				<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見文を説得力のある内容にし、表現の仕方を工夫しようとしている。 作品
四	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価 				<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み、論理の展開の仕方や根拠の妥当性などを評価・批評することができる。 文章を互いに読み合い、主語と述語の照応などに注目して評価している。 相互評価 観察
五	<ul style="list-style-type: none"> 推敲・完成 				<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を明確にして、説得力の理由付けを考えている。 観察 作品
六	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価（本時） 				<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすべき工夫点に気付いている。 観察 自己評価表

本時の学習

(1) 本時の目標

書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすべき工夫点に気付く。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 本時の目標を確認する。		
本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> お互いの作品を読み合い、文章表現の効果的な工夫点を見つける </div> 前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内の生徒に対するコメントと、自分のお気に入り作文を一作品選ばせることを家庭学習課題としておく。 	
2 お互いのよさをグループごとに評価する。		
グループごとにお互いのよいところ、工夫点を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人3分程度で、作文のよいところや工夫点を発表させる。 ・ グループで出たよいところや工夫点をメモさせておく。 ・ 自分の書いた作文を読み、肯定的な評価が得られることによって達成感・充足感をもたせる。 	
3 グループごとに、クラスのお気に入りを決める。		
グループごとに、クラスのお気に入りを選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで一作品のお気に入りを決めさせて、その理由も相談させる。 ・ その作文がお気に入りである理由を班ごとにメモさせる。 ・ グループごとにお気に入りとその理由を全体に発表させる。 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">次の点に注意して発表させる。 結論先行で発表させる。 主語を明確にして文末までしっかりと発表させる。 理由を、ナンバリング等を用いて述べさせる</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者も予め生徒の作文からよいところを見付けておき、生徒たちの発表に足りない部分があれば補足する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">題の付け方が効果的 丁寧な描写で分かりやすい 偉人の業績と自分の課題解決との重なりが明確で理解しやすい 課題解決方法が具体的で納得できる</p> </div>	書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすべき工夫点に気付いている。 (観察、自己評価表)
4 学習を振り返る。		

<p>単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 他の人の文章から学んだこと，単元で学んだことを書かせる。・ メモを活用して，自分のグループで出た作文のよさをまとめさせる。・ 数人の生徒を指名して発表させる。・ 生徒の学習に対する評価とまとめを授業者から行い，次からの書くことへの意欲を喚起する。	
-------------------	--	--

検 証

検証の方法

検証項目は「自分の意見を明確にして、説得力の理由付けをすることができたか」「書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすることができたか」の2点である。

全体の傾向を作品と生徒の感想から検証する。

検証結果

作品分析

1 「自分の意見を明確にして、説得力の理由付けをすることができたか」

(1) 意見と理由付け

全員が自分の意見を明確にして、最後まで一貫して書いている。(100%)

読むことと関連づけて、自分の意見の理由付けをしている。(14.3%)

(2) 論の展開が適切か

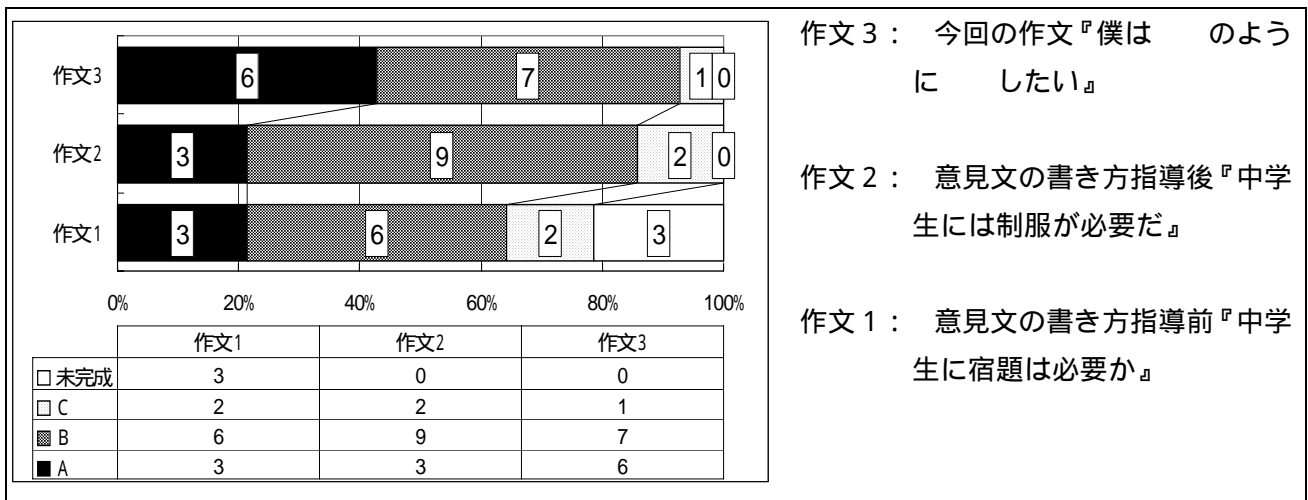
生徒の作品を次の三段階で分類すると、Aが42.9%(6名)、Bが50.0%(7名)、Cが7.1%(1名)である。

A：整った論理の展開をしており、問題提起や分かりやすくする具体例などを効果的に書いている。

B：導入・本文・まとめ等の整った構成で書かれている。

C：文章の展開に無理がある。

さらに、今回の作文とこれまでの作文の論理の展開を比較してみる。



作文3： 今回の作文『僕は のように したい』

作文2： 意見文の書き方指導後『中学生には制服が必要だ』

作文1： 意見文の書き方指導前『中学生に宿題は必要か』

4月に書かせた事前作文では、最後まで書き上げることができなかった生徒が3名いた。

その後、一学期に意見文を比較させて説得力を比較する学習を「双括型で根拠を三つ、反論を想定して書く」などの構成方法を例示して指導してきたため、全員が同じ型でナンバリングを使って意見文を書くことはできていた。ただし、その内容を見てみると、自分の意見を支える理由付けが不明確で、短い言葉で思いつくことを述べただけのことが多く、論理の展開に不十分さが見られた。しかし、今回の作品では、どの作品も偉人と自分の意見を関連づけて論を展開することができていた。

2 「書いた文章を互いに読み合い、自分の文章表現の参考にすることができたか」

(1) 完成前の相互評価

相互評価後の文章では、書き出しに台詞や読者への呼びかけを取り入れるなど、読み手を意識した書き方に推敲した生徒が多く、全員が、「～を読んで」というありきたりの表現から脱して

いる。

(2) 完成後の相互評価

単元の終わりに完成した作文を読み合い、学級で「お気に入りベスト3」を選ぶという学習活動と、それぞれの作品の良さを認め合うという学習活動を取り入れた。自分の作品をほめられるという体験は生徒に達成感をもたせたようで、授業のまとめには自分の書く力を再度評価したもののや、今後の意欲について述べたものが多く見られた。

【自分の書く力を評価】

僕は台詞をあまりうまく使えていなかったのですが、それがうまく使えるようになりました。

今回で、具体的な例を挙げて自分の意見を他の人により分かりやすくすることができるようになった。他の人の作文に、問いかけをよくして読んで読む人にもしっかり考えられる作文があった。

【達成感】

自分の作文を認められて嬉しかったです。私はこのまとめを作るまで、悩んで迷っていました。でも、みんなのおかげでとてもいいものを作ることができました。

私は先生にたくさんの時間をとってもらって、偉人についてたくさんを知ったし、これからの未来についても考えることができました。私は「作文を5枚なんて書けん。」と最初は思っていたのですが、知ることが増えるにつれて書きたいこともいっぱいになりました。下書きで話題を絞ったつもりでしたが、読み手にとっては読みにくいのだと先生に指摘されて気がつきました。作文を書き直すのには苦労したけど、できあがった時の嬉しさは忘れられません。

【今後への意欲】

説得力のある作文を書けるようになりたいです。

根拠の事実と反論のところで、みんな最後までまとまっていて読む人(自分)から見て読みやすく、その偉人伝についてと、これからの自分について書いていました。自分も読む人に伝わるように次から書いていきたいです。

分析・考察

〔成果〕

読むことと関連付けて指導することによって、生徒は書くべき内容をもつことができた。また、既習事項を活用させて、インベンション指導を行くことにより、生徒は書くべき内容をどのように書けばよいのかという発想を得て書くことができた。

記述前にタイトルをつけさせることは、書く内容の方向付けに有効であり、論理的に書く力の高まりにつながった。

記述中の交流によって生徒は互いが書き手であると共に読み手となり、論の展開や表現方法などを学び合うことができた。さらに、記述後の交流で肯定的評価を得た生徒は、自らの書く力に対する達成感をもち、次時への意欲をもつことができた。

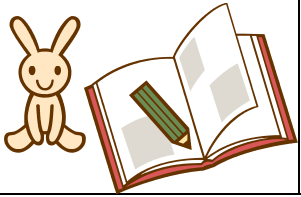
〔課題〕

指示語や接続詞を効果的に用いることについては十分に指導しきれなかった。今後は、論理的な表現を支える語句の効果的な活用についても、読むことと関連付けながら指導することが必要である。

『伝記を読んで未来を語ろう』を書き終えて

() ()のいいところ

みんなの作文にはこんな良いところがあった



二年 ()

一番のお気に入り

() ()のようだ

() ()たい

理由

まとめ

